

様式 2

令和 8 年度第 1 回 富士見市立富士見特別支援学校 コミュニティ・スクール協議会 議事録						
日 時	令和 8 年 6 月 4 日 (木)		開会 午後 1 0 時 0 0 分 閉会 午後 1 1 時 2 5 分			
場 所	富士見市立富士見特別支援学校 1 階 宿泊棟					
出 席 者	委 員	小菅委員	重見委員	細野委員	高橋委員	新井委員
		○	○	○	○	欠
		秋元委員	落合委員	久保田委員	石井委員	齊藤委員
		欠	○	○	○	○
		湯浅委員				
		○				
	事 務 局	富士見特別支援学校教頭 湯浅、事務職員 高頭				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	(1) 富士見市教育委員会挨拶・委嘱状交付 (2) 校長挨拶 (3) 委員自己紹介 (4) 学校経営方針についての説明 (5) 情報交換					
議 事 内 容						
1 開 会 2 教育委員会挨拶及び委嘱状交付 趣旨説明 3 校長挨拶 4 委員自己紹介 5 会長・副会長の選出 6 議事 議題 1 学校経営方針について ⇒承認 ○学校経営方針、グランドデザインについての説明 ①児童生徒一人一人を大切にする指導の充実 ②教職員の専門性の向上 ③センター的機能の推進 ④開かれた学校づくり						

【協議内容】

委員：学校経営方針の中で、「専門性」についての話があったが、突き詰めていきたい「専門性」は具体的にどのようなイメージか

校長：職員は、知識や理論などについては法定研修で学んでいるが、それ以外にも、子供や保護者の想いを聞いて寄り添い育てるということを学んで欲しい。特性を理解してどうアプローチするか、その引き出しを増やし、力をつけていくことが専門性であると考えている。

委員：子供の落ち着いてきた背景には、デイサービスが制度化され、放課後に過ごす居場所があるということが関係していると感じている。先生方には、教育技術だけではなく、福祉や制度、障害者にかかわる歴史のことも幅広くもっと知って学んで欲しい。一度に理解することは難しいと思うので、シリーズ化をするなどして学ぶ機会を考えてもらいたい。

委員：先生方が事業所などに顔をだしてくださっているので学校との連携がしやすいと感じている。情報交換も密にできているという実感がある。

委員：学校紹介の映像や運動会の様子を見て、今年度入学した子供たちが生活の中にしっかり入れているのを感じた。特別支援学校での教育活動充実は感じられたが、市内の特別支援学級の先生方も専門的な研修を受ける機会はあるのか。

校長：連携として本校のスタートアップ研修に案内し、合同で参加してもらい機会も設けている。他にも、支援籍学習などで交流をする中で職員同士の連携を行っていたり、個別的な要望があったりした際にはコーディネーターなどを講師として随時派遣するなどして、センター的機能を果たしている。

委員：市内でも特別支援学校を他の小中学校と同じように市内の学校の一つとして並列して捉えている。

委員：共生社会、インクルーシブ教育システムの役割は大きい。差別意識が根強く残る中、子供たちの教育システムを構築していく上で市立が発信していくことは大事。ゆいの里でも、人を隔離していると誤解されることがあるが、障害のある人が地域で生活していくための一つの段階としての役割を果たしている。また、専門性の一つとして包括的性教育についてのお話があったが、とても大切な内容である。機会があれば、今後その取り組み様子についても紹介してもらいたい。

委員：経営方針にあった、誰一人取り残さない教育の推進については、難しいことではあると思うが、本校の先生方は子供たちに向き合ってくれている。

委員：先生と子供のコミュニケーションバランスが取れている。いいことである。多様な個性に対して、よく対応しているなど感心している。

議題2 情報交換

○学校応援団についての案内（教頭）

7 事務連絡

8 校内見学